



る う て る

2013年
3月
No.790

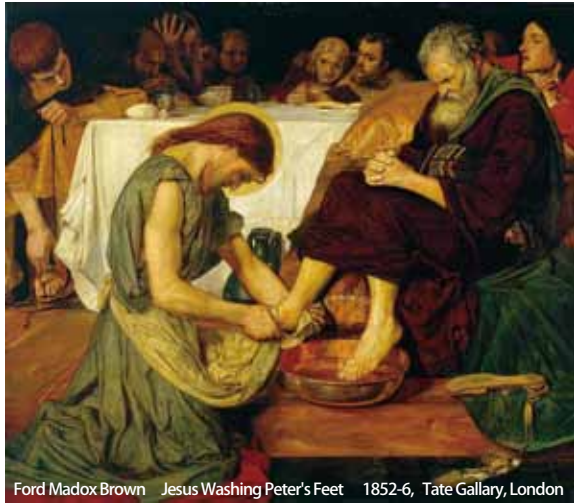
■発行所■
日本福音ルーテル教会事務局広報室
〒162-0842 東京都新宿区市谷砂土原町1-1
電話 03-3260-8631

■振替口座■ 00190-7-71734
■ウェブサイト■ <http://www.jelc.or.jp>
■E-mail■ jelc@jelc.or.jp
■発行人■ 徳野昌博 m-otkuno@jelc.or.jp
■印刷人■ 精文堂印刷株式会社
■定価■ 1部 40円 (郵税を含む)

説教「悲しみに寄り添う主イエス」

日本福音ルーテル名古屋めぐみ教会牧師 田中博二

ペトロが、「わたしの足など、決して洗わないでください」と言うので、イエスは、「もしわたしがあなたを洗わないなら、あなたはわたしと何のかかわりもないことになる」と答えられた。ヨハネによる福音書13章8節



Ford Madox Brown Jesus Washing Peter's Feet 1852-6, Tate Gallery, London

三月は北国でも春の音を感じる季節です。教会の暦では、主イエスの受難から復活へと思いを傾けるときのようになります。主は十字架の苦しみの前日、弟子たちと共に夕べの食卓へ着かれます。「最後の晩餐」のときです。そして、その席で思いがけないことを主イエスはなされます。12人の弟子

「最後の晩餐」のときで、ペトロは自分たちの足を洗い、そして腰にまとった手ぬぐいで拭き始められるのです。主の「洗足」の出来事です。主イエスが弟子たちを愛して、この上なく愛し抜かれたみわざです。弟子たちの驚きはどんなだったでしょうか。シモン・ペトロは自分の番になった時、「主よ、あなたがわたしの足を洗ってくださるのですか」とお尋ねします。すると、主イエスは、「もしわたしがあなたを洗わないなら、あなたはわたしと何のかかわりもないことになる」と答えられます。ここに、主イエスが弟子たちに与えてくださった神の愛の本质が示されています。

弟子たちが主イエスに何かをすることよりも前に、主イエスが弟子たちに仕え、弟子たちの足を洗ってくださいました。それはわたしたちが主イエスにつながるときも主イエスがわたしたちのために祈ってください、仕えてくださることと同じなのです。主イエスはその後、ペトロが自らの弱さの故にイエスを三度知らないと言った、主の名を否定することも存知でした。それにも拘



うお方として仕えてくださるお姿を見るのです。大学病院の集中治療室で危篤になってベッドに伏している友のため、祈り疲れているときに、その場所に主イエスがおられることに気がかされる。道端で寒さと貧しさのため疲れ果てている者の側に、主イエスがそこに居て祈っておられるお姿を見る。

「洗足」のイエス・キリストのお姿は、今にも倒れ伏してしまうわたしたちを再び立ち上がらせてくださるのです。この世にあつて、わたしたちの足はすぐに汚れ、土にまみれてしまいます。黒く汚れた足を、くり返しくり返し主イエスは洗い、清め、汚れたものをふき取ってくださいます。主イエスはわたしたちの側に近く、居て、過ちと怠りを赦し、再び歩みだす勇気を与えてくださいます。

わたしたちの一切の努力が空しいと思われるその時、主イエスがそこに居て、わたしたちの足を洗ってくださいます。とぼとぼと暗い夜道を歩いていく時に、その隣に一緒に歩いてくださる主イエスを見る。弟子たちの足を洗ってくださった主イエスは、今も、みことばによってわたしたちの悲しみに寄り添ってくださいます。わたしたちの思いを超えたあり方で、主イエスはその場所に居てくださいます。

そして、主イエスはわたしたちに新しいみことばを示してくださいます。「洗足」の主イエスが、弟子たちにお示しくくださった新しいみことばの恵みを与えてくださいます。「わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい」と。主イエスの愛に押し出され、今、居る場所に互いに愛し合う道を進んでいきましよう。

ルーテル教会の女子学生会館

文京カテリナ

やさしい心配りにあふれた
安心・快適なカレッジライフのために

たけなま新築工事中 6月完成予定

個室 全156室
(専大生向け進音室あり)

お申し込み・お問い合わせは
東京都文京区千石二丁目3-0-12
TEL03-3942-2291 FAX03-3945-2281
<http://www.katherina.jp>

「洗足」のイエス・キリストのお姿は、今にも倒れ伏してしまうわたしたちを再び立ち上がらせてくださるのです。この世にあつて、わたしたちの足はすぐに汚れ、土にまみれてしまいます。黒く汚れた足を、くり返しくり返し主イエスは洗い、清め、汚れたものをふき取ってくださいます。主イエスはわたしたちの側に近く、居て、過ちと怠りを赦し、再び歩みだす勇気を与えてくださいます。

ルター研究 所長 鈴木 浩

ルター研究で意味合いがすっかり変わった言葉をもう一つ挙げよう。「教会」である。それまでは、教会は組織であり、制度であり、建物であった。その頂点に教皇がいた。

ルター1の年若い同僚、メランヒトンが、「アウグスブルク信仰告白」という重要な文書の中で、新しい教会観を冒頭に描いた。

その内容を要約しよう。

一、教会とは建物のことではなく、信仰者の集いのことである。

二、そこでは、福音が純粹に語られている。

三、そこでは、福音に従って、洗礼と聖餐が行われている。

そして、メランヒトンはこう付け加える。「それだけあれば、十分だ」。

逆に言えば、「福音が純粹に語られ」、「福音に従って、洗礼と聖餐が行われなければ、他に何があっても、そこは教会ではない」。

制度的理解が、機能的理解へとすっかり切り替わっている。無論、そうした機能が十分に發揮されるためには、一定の仕組みや組織が必要になる。しかし、機能を果たさなくなった組織は、変えなければならぬ。こうして、教会の組織が徐々に改められていった。

点訳ボランティア募集中

福音伝道のためキリスト教図書のパソコン点訳にご協力ください。初心者の方の募集も歓迎です。

詳しくは静岡キリスト教盲人伝道センターまで
〒422-8041 静岡市駿河区中田1-5-21
電話 054-285-0496
Eメール shizumonden@mail.wbs.ne.jp

関連記事 2面に

おいでよ！ ルーテル教会東教区 50年記念大会に！

教会合同50周年の記念でもある「ルーテル教会東教区50年記念大会」は「やっぱりルーテル」50年目の出会い、交わり、新しい旅立ち」をテーマにして、5月4日に開催します。午前中のプログラムは主にルーテル学院大学キャンパスを会場に、午後には隣接のICUチャペルで「派遣の礼拝」が予定されています。

この50年、神様に守られてきたことを感謝する

信徒の声

「主に導かれ点訳者の道を歩いて」 後継者を求めています

横浜教会 金子道弘



1976年の「三つてら」で、『盲人の方への図書が不足している、点訳奉仕者を募る』との武村牧師の記事に触発されて、「日点」(日本点字図書館、1940年キリスト者盲人の本間一夫氏が私財で創設、近年も全国の視覚情報施設の指導等、最近では中核点字図書館として重要な役割も担っている)をお願いして点訳通信教育を受け、翌7年から日点の正式点訳奉仕者に、

主の導きで、ライフワークとして用いられています。94年にパソコン点訳になるまでは、点筆で厚紙に打ち込み、小さなミスターだけ糊で消し打ち直しますが、全頁書き直しもあって大変でした。右手小指の「点タコ」は今に残っています。

2000年の還暦と退職を機に、「センター」(キリスト教盲人伝道センター)点字図書館、静岡市、創設40年を越え、プロテスタント唯一の超教派の「点字図書館」に主軸を移して点訳・校正の奉仕を続けさせて頂いております。

日点がシステムを管理する「サビエ」図書館は2010年に運用を開始。インターネットで全国の視覚情報施設・団体240以上が参加し、「センター」も参加、5万人以上が利用され、音訳・点訳の環境は大幅に改善されています。

日点の点訳奉仕者数は77年335人でしたが、点訳歴「50年以上」の方の勇退など高齢化もあって、漸減し11年には遂に二桁に減りました。が、一般図書は「サビエ」で効率化されました。

キリスト教専門図書は一般図書館では殆ど点訳されないため、センターでの点訳体制は重要ですが、奉仕者漸減で、後継者育成が喫緊の課題です。

日点の協力も得て、センターでは点訳希望者を募集しています。通信教育(殆ど、教材での自習、演習のパソコン通信での添削指導により6か月位で育成から実務へと移行の予定。根気強く、未長く奉仕出来る方を歓迎)で受講していただき、私を含め70代以上で数少ない点訳者が次代の奉仕者にバトンタッチしたいと願っています。

る第一部のプログラム(午前10時〜午後1時)は、教区内の諸教会、ルーテル学院大学・神学校、社会福祉施設のご協力をいただく企画です。多勢の参加者が同時に楽しめるフェスティバル的内容が中心となります。多様なプログラムを体験する中で、ルーテル教会の良さを再び知ろうという願いを込めて以下の内容を検討しています。

◎50年間のシンボルのプログラム：長年各個教会の宣教活動を支え、今日のルーテル教会の礎を築いた引退牧師の諸先生方との「云場」での交流や、

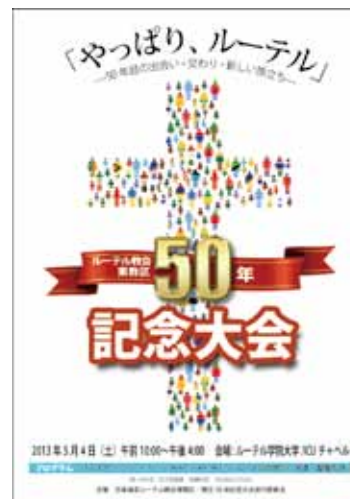
大先輩の信徒の方々の紹介や大会のキーワードである「ルーテルの良さ」を確認できるような記念グッズについても検討しています。

◎「教会紹介・施設紹介ブース」の設置！教会紹介ブースは、教区内の地域に溶け込んでいる37教会の風景をスケッチ画(中川浩之兄担当)と写真、コメントで紹介するコーナーを設けます。

◎「学ぶ」のコーナー：まもなく訪れる「宗教改革500周年」に向けて、ルター意義を改めて考える機会として、学びのコーナーを設けます。「ルター」の信仰とは、キリストに対する信頼である(ルター研究所鈴木浩所長)を中心に学びます。四つのテーマ(信仰・恵み・聖書・聖礼典)の講座では、アウグスツルグ信仰告白、小教理問答をテキストに学びをします。

◎「学び」のコーナー：まもなく訪れる「宗教改革500周年」に向けて、ルター意義を改めて考える機会として、学びのコーナーを設けます。「ルター」の信仰とは、キリストに対する信頼である(ルター研究所鈴木浩所長)を中心に学びます。四つのテーマ(信仰・恵み・聖書・聖礼典)の講座では、アウグスツルグ信仰告白、小教理問答をテキストに学びをします。

◎「学び」のコーナー：まもなく訪れる「宗教改革500周年」に向けて、ルター意義を改めて考える機会として、学びのコーナーを設けます。「ルター」の信仰とは、キリストに対する信頼である(ルター研究所鈴木浩所長)を中心に学びます。四つのテーマ(信仰・恵み・聖書・聖礼典)の講座では、アウグスツルグ信仰告白、小教理問答をテキストに学びをします。



JLER(ルーテル教会救援 対策本部) 現地からのレポート JLER派遣牧師 野口勝彦

まもなく被災地は震災から二年を迎えます。「となりびと」では、今月より、これまでの支援活動に加え、近い将来、発生する確率の高い、南海トラフ巨大地震への備えとしての防災・減災教育活動を開始します。今月号では、今回の震災を体験し、「お花畑・花壇プロジェクト」として「となりびと」が支援を続けている石巻市のNPO団体、スワン国際協力の会代表の千葉直美氏から、震災に対する心構えと教訓について投稿していただきました。尚、同氏のパートナーは、震災後から現在まで「となりびと」と現地スタッフとして支援活動をされている千葉一氏です。

被災発生に対する心構えや教訓と女性の視点からスワン国際協力の会代表 千葉直美

2011年3月11日私の住む宮城県石巻市を東日本大震災が襲いました。あまりにも突然で、自分がほとんど防災準備や心構えがなかったことを反省しています。

被災後、食料や水といった生活必需品の確保は、もちろんですが、女性達の多くは、どうやって家族に、栄養のバランスがとれた温かい食事を提供できるかに心をくだしていました。電気やガスが止まり、卓上カセットコンロや、昔ながらの石油ストーブで料理した



左が千葉直美さん



「お花畑プロジェクト」

り、または庭や広場で火を焚いて共同で炊き出しをしていました。オール電化で便利な中、このように調理法の選択肢があつた方がいいかもしれません。三月という寒い時期、一杯の温かいお茶がどんなに嬉しかったか。台所が女性にとつて、非常に大切な場所であることは、この震災であらためて実感しました。私が出会った女性たちは、一階にあった台所が破壊され調理器具を失っていました。ルーテル教会救援が提供してくださった、まな板と包丁は、とても喜ばれました。与えられたものだけを、そのまま口に入れるだけでなく、自ら「調理する」という行為が、被災当時、生きる証であり、励みになった気がします。

生け花、茶席、花壇作り、キャンドル作り、コンサートといった女性の心の癒しの時間にも、ルーテル教会救援のご支援をいただき、ここに感謝申し上げます。

【スワン国際協力の会ブログ】
http://ameblo.jp/swan20110311/
「JLERブログ「ルーテルとなりびと」」
http://lutheran-tonanhibi.blogspot.jp/

